

# クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）の 防除対策について

令和8年7月1日  
埼玉県茶業研究所

本年のクワシロカイガラムシ第2世代ふ化幼虫の発生ピークは平年（7月22日）より早い見込みです。早い地域では7月15日、遅い地域では7月23日頃です。下記の情報参考に、適切な時期に防除対策を実施しましょう。なお、防除適期の判断が難しい場合はメール等で相談（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）または切り枝サンプルを茶研までご持参ください。

## 1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと茶株内温度のデータから推定した各地点のクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	防除適期 ( )内は幼虫ふ化の推定ピーク
狭山市（笹井） 所沢市（東狭山ヶ丘）	7月16日～19日（7月15日）
入間市（野田）	7月17日～20日（7月16日）
入間市（上藤沢A）	7月18日～21日（7月17日）
入間市（上藤沢B）	7月20日～23日（7月19日）
入間市（木蓮寺）	7月21日～24日（7月20日）
入間市（茶研）	7月24日～27日（7月23日）
青梅アメダスデータ	7月16日～19日（7月15日）
所沢アメダスデータ	7月15日～18日（7月14日）

## 2 防除時期のポイント

薬剤防除は幼虫ふ化の推定ピークの翌日から4日後が適期になります。ただし、今後、30℃以上の高温が続くと発育が抑制されて、ピークが遅れる可能性があります。また、降雨日が続き防除適期を逸する場合があります。防除適期はあくまでも目安ですので、時期が遅れても発生が目立つ場合は、防除を実施しましょう。

## 3 防除対策のポイント

クワシロの雄まゆや雌成虫が平年より多く発生している茶園が見受けられます。一番茶収穫期と重なり防除対策ができず、茶株内の幹枝に白い雄まゆが多く発生している茶園は、8月下旬以降、茶株の枯死等が心配されます。今回の防除はしっかり行いましょう。

なお、ヒメアカホシテントウやこう薬病が発生している茶園では今後のクワシロの発生が激減して、薬剤防除を省略できることもありますので、ご相談ください。

### (1) 3月にプルートMCを散布したほ場

- ・この時期は、防除対策の必要はありません。

### (2) プルートMCを散布していないほ場

- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で米ぬかまたはナタネ粕（40kg/10a 相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理すると抑制効果が期待できます。朝夕の涼しい時のマシン油乳剤の散布も有効です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣・田中

TEL：04-2936-1351

FAX：04-2936-2891

E-mail：omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp